

学校教育目標	◎大好き自分 大好きみんな とともに創る品濃の子				
	知 生きてはたらく知(学びを自らの生き方や社会とつなげ、知恵を働かせて生きる力を育みます。) 徳 豊かな心(自分をかけがえのない存在として大切にすることを育て、自信をもって物事に取り組み、困難を乗り越える力を育みます。) 体 健やかな体(望ましい生活習慣、楽しく運動する習慣を身につけ、自らの心身の健康の保持・増進をしようとする態度を育みます。) 公 公共心と社会参画(地域社会とのつながりを意識し、自分ができることを考え、他者と協働して課題解決を図る力を育みます。) 開 未来を拓く志(世界で起きている出来事にも幅広く関心をもち、持続可能な社会の実現に向けて、身近なところから行動する力を育みます。)				
学校概要	創立 41 周年	学校長 世取山 実義	副校長 枝元 由佳子	2 学期制	一般学級: 21 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 685 人		主な関係校: 平戸中、東品濃小、平戸小、平戸台小 秋葉中、秋葉小、川上小		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	平戸中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> ○自分づくりに関する力 ○人やまちとのつながりを大切にもてる力 ○持続可能な社会の実現に向けて行動できる力 	平戸中学校 平戸小学校 平戸台小学校 東品濃小学校 品濃小学校	自ら学び、互いの違いを認め思いやりの心もち、地域や社会とのつながりを大切に子ども 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉言語活動・コミュニケーション力〈問題発見・課題解決能力〉 ・「児童生徒が主体的に学習する授業づくり」を小中合同で研究・実践する。 ・学校給食を活用した食育の推進を行う。また、けがの未然防止に向けた健康教育を推進する。 ・SDGs教育をブロック内で推進するため合同テーマを設定し、各校での取組実践を共有する。 ・学校運営協議会、地域連携共同本部を活用した学校関係者評価を実施する。

中期取組目標	○誰もが安心して豊かに生活できる学校を目指して、教育活動全体を通して、人権尊重、差別・いじめを許さない考え方・心情、態度を育成していく。 ○①ペア学年(異学年交流)を中心とした活動を充実させることによりより良い人間関係の育成を図る。 ○②当たり前のことを当たり前に、そして、確実に取り組むことを通して、よりよい生活習慣・学習姿勢の定着を図る。 ○③Y-Pの研修を通して、よりよい学級風土づくり、人間関係づくりを行っていく。 ○ESDの視点を取り入れ、新指導要領の改訂の狙いをしっかりと理解して、カリキュラムマネジメント、授業改善、地域に開かれた学校づくりを行う。 ○①生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域課題へのアプローチ、ホールスクールアプローチの視点による持続可能な学校づくりに取り組んでいく。 ○教職員が相互に啓発・連携して活気ある学校組織を継続する。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 重点研推進委員 研究主任 評価	①総合・生活科の時間を中心に、SDGsへの取り組みを強化し、主体的に問題解決していく力を育てる。 ②Y-Pの考え方を取り入れ、授業デザインシートを活用した授業づくりを行うことで、誰もが安心して豊かに学び生活できる学級風土を育てる。 ③授業改善を行い、指導を工夫し、児童のやる気を引き出す授業を展開する。
徳 豊かな心 担当 人権福祉 教務 児童指導	①ペア学年グループによる「もくもく清掃」に取り組むことにより、ペア学年での交流の機会を増やしていく。 ②教室の配置や職員室の座席の配置など、異学年交流がやりやすい環境にしていく。 ③地域との交流・ふれあい活動を大切に、あいさつに力点を置いて、地域の人々とのつながりを大切にすることを養う。
体 健やかな体 担当 保健 学校食育	①PTAや他機関の方々の協力のもと、子どもたちが楽しみながら体力の向上を図れるようにする。 ②食育を通して、アレルギーや栄養指導など、食に対する理解を深める。 ③児童を中心とした学校保健委員会の取り組みを推進していく。
公開 自分づくり教育 担当 重点研	①総合・生活科を中心に、SDGsとの関係性を意識して地域で体験的に学ぶ機会を設定し、他者との関わりの中で一人一人の自己有用感を高めていく。 ②Y-P考え方を取り入れた授業づくりに計画的にとり組む。
いじめへの対応 担当 いじめ防止	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を開き、認知された案件の経過確認を丁寧に行うとともに再発防止に努める。 ②いじめ防止対策委員会では、積極的にいじめの認知を行い、きめ細かい児童指導・支援ができるようにしていく。 ③YPを活用したより良い学級風土づくりに取り組みより良い人間関係づくりに力を入れて取り組む。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 教務 メンター研	①午前5時間制を活用し、児童は、6時間授業の日でも15時までに下校し、その後教職員は休憩時間、会議、学年研、教材研究等の時間活用を有効に行う。②高学年において教科分担任制を行い負担軽減を図る。③メールでの遅刻・欠席連絡のシステムを用いる。④今年度もメンターチームを組織し、計画的な運営を行う。⑤定時退勤日を設定し、教職員のゆとりと活力のある環境作りに努める。
特別支援教育 担当 特別支援 児童指導	①ユニバーサルデザインの考え方を研修し、教室環境や授業の改善を進める。 ②一般学級と個別支援学級の細やかな連携を図れるよう打ち合わせを密に行っていく。 ③専任を中心に、取り出しが必要な児童へのSSTを含めて、計画的に対応する。
児童生徒指導 担当 児童指導 特別支援	①校内重点研では、今年度はY-Pの考え方を取り入れた国語の授業づくり・授業改善に取り組み、授業を通しての児童指導・いじめを生まない学級風土づくりに取り組む。 ②児童支援専任を中心に、校内の組織的対応を行う。 ③SSW、学校カウンセラー、他機関との連携・活用を図っていく。
地域連携 学校運営協議会 担当 学校運営	○学校運営協議会の円滑な実施を推進し、学校教育に対する支援、サポートを依頼する。 ○連合町内会定例会や、地域行事等の参加を通して、町内会との連携や主任児童委員、街づくり協議会との連携を強化する。 ○地域との結びつきを強め、緊急時や災害時に迅速に行動できる力を育てる。
保護者・PTA ボランティアとの連携 担当 地域コーディネーター	○児童の登下校の安全のため、子どもたちの見守り活動を依頼し推進する。 ○図書ボランティアや読み聞かせ活動を通して、児童の読書力の向上を図る。 ○学校教育に対する理解や積極的な学校行事への参加を促すことにより連携力を強める。